

テーマ

**育てよう地域の「輪」・「話」・「和」**

目標

**学習支援・環境整備・行事支援・柿に学ぶ**

## 今年度の取組紹介

柿クッキー製作・販売・・・「つるし柿プロジェクト」をさらに発展させるため今年も奈良県農業総合センターの濱崎先生をお招きしました。特に柿渋を利用してうちわやかごづくり体験、さらにその絞りかすを利用した柿クッキー作りや販売を積極的に実施しました。

特に中学校の生徒会役員や部活動生徒の参加などで昨年度とは異なった小学生と中学生の絆、校区内の小学生同士の交流の姿が見られました。

世界遺産全国サミット、奈良市交流会などでの柿販売そのためのクッキー製作など多くの子どもたちの活躍の場がありました。生き生き活動する姿は地域の皆さんにも多くの元気を与えました。

かまどベンチ・・・火入れ式を行いました。ボランティア部の生徒が作り上げたかまどで豚汁を振る舞って頂きました。今後防災に対する意識が中学生を中心に広まり、地域の中で活躍できる人材に育ってくれればと願っています。



かまどベンチでの炊き出し



柿クッキー製作



柿渋をつかった体験活動

## 今年度のまとめ

- 今までの活動を「文部科学大臣表彰」という形で評価していただきました。
- 先進校視察・県外研修によって今年も新しい活動のヒントを得ることができました。
- 各学校でコーディネーターを職員や保護者に紹介する機会を持つことができました。
- 学区ブランド産品（柿クッキー）を全国世界遺産サミットや交流の集いなどで販売することができました。特に今年度は中学校の生徒会が活動に積極的に参加してくれ、盛り上がりました。また小学生や中学生で班を構成したところ、それぞれの役割を自覚しよく活動してくれました。

## 来年度に向けて

- スタートはコーディネーターが中心になって引っ張ってきました。  
ボランティアや地域の人を主人公にする活動への転換をはかります。  
教員や中学生をもっと巻き込む活動の工夫をします。
- かまどベンチを中心にしながら防災意識をどのように高めていくのか検討していきます。

テーマ

**豊かな人間性の育成**

目標

**大きな舞台での発表や職場体験等で、豊かな人間性を育成する。**

## 今年度の取組紹介

春は2年生、秋は1年生で実施している「教育環境整備事業」は、今年度も土作り、施肥、灌水などの比較的長期的な作業をとおしての花作りを、いたわりの心や感動、また、環境や物を大切にするなど豊かな心を育む取り組みの一つとして、推進してきました。6月11日に1年生がペゴニアを、12月10日に2年生がパンジーの花苗を、一人ひとりがそれぞれのプランターに3色ずつ植える体験をしました。



また、上記取り組みと共に、大きな舞台での発表や、職場体験等の様々な体験から、子ども達の自主性を培い、豊かな人間性を育んできました。「大舞台体験事業」では、生徒達に大きな舞台での発表を体験させ、コミュニケーション能力や、相手を思いやる豊かな感性を高めるため、9月20日（金）に文化会館を貸し切り、クラス合唱や吹奏楽等の発表会を催しました。保護者の方々にも好評で、416名が来場されました。また、「生き方を学ぶ事業」では、9月26日に8人の講師（看護師、ケーキ職人等）を招聘し、働くことのすばらしさや、厳しさを理解させる取り組みをしました。その経験を教訓に、職場体験を実施することで、子ども達は自分の進路について深く考え、社会人としての意識や態度をしっかりと学ぶことができました。



## 今年度のまとめ

この事業で、子ども達はかけがえない体験をすることができました。地域の方々の協力で事業を実施したことで、子ども一人一人が地域や学校で大切にされていると実感すると共に、互いにコミュニケーションを深くとるようになりました。子どもたちの友情も深まり、豊かな人間性の育成につながりました。また、一つの大きな目標に向かって、みんなで真剣に取り組む中で、相手を思いやり、相手の思いを感じ、相手の身になって考えられるような、豊かな感性も育ちました。「生き方を学ぶ事業」では、生の話を聞くことで、自分の進路について深く考えることができました。

また、職場体験では、子ども一人一人の勤労意識を刺激し、働く喜びを提供することができました。

## 来年度に向けて

来年度は、この事業の力をかりて、「自主性を培う」教育を実践し、子ども達の「豊かな人間性」を育みたいと思います。校区全体で子ども達を守り育てることを基本に、「感謝の心と人権」そして人間関係、信頼関係を大切にしながら、子ども一人一人に知・徳・体の調和のとれた人格を形成し、未来を担える人間を育成するため、家庭・学校・地域が一体となって、子ども達に力を付けていきます。

テーマ

**みがけよ心、きたえよ体、地域と学ぶ二名っ子**

目標

人との出会いを大切に、豊かな心・たくましい体・しなやかな人間関係力を自ら獲得する児童の育成を目指す。

今年度の取組紹介

**〈校区見回り・教育活動支援〉**

毎週月・水・金曜日には、会員154名の「安全鳩」の皆さんが校区内の安全パトロールを行い、二名小学校児童の登下校の安全を見守ってくださっています。その他、第2学年児童の「我が町探検」では探検の付き添いとして、第1学年児童の「昔遊び」では羽根つきや独楽回し、けん玉遊びなどの先生として学習活動を支援して



わが町探検の一コマ

いただきました。交流が進むなかで、校区内で出会ったときに、児童が自分から挨拶したり積極的に声かけをしたりする場面も見受けられるようになりました。また、各学期始めと終わり及び毎月第2・4金曜日を中心に「青パト」の皆さんが校区内をパトロールしてくださっています。6月6日には児童会が中心となり、全校児童参加の下、西奈良警察署の協力も得て、「青パト出発式」を開催しました。

**〈地域のボランティア活動に学ぶ〉**

地域でボランティア活動をしておられる方々をゲストティーチャーとしてお招きし、二名地区の歴史や自治会活動の歴史、杵築神社の縁起などについて教えていただきました。自治会活動の意義や、地域の遺産を守るために自分たちができることなど、児童が主体的に考え、学習する取組となりました。



講話「二名小学校の今昔」

今年度のまとめ

- 地域の方々とはふれあうなかで、親しみや見守られている安心感、日頃お世話になっていることへの感謝の気持ちなどを抱くようになり、児童自らがあいさつしたり話しかけたりするなど、本校児童の課題であるコミュニケーション能力の育成に効果をもたらしています。
- 高学年では、自分も地域の一員であるという自覚が芽生える児童もおり、将来、同じように地域を支える役割を担おうとする意欲につながることを期待できます。
- 「にみょうきつずくらぶ」や「スポーツ協会」等との連携により、積極的に外遊びをする児童が増え、運動することの楽しさを味わいながら体力向上を目指す取組ができました。

来年度に向けて

- 学校の教育活動を支援してくださっている様々な団体や地域人材との連携を深め、地域の力を効率よく活用できるようにするため、運営委員会の組織力を高めるとともに、校内においても校務分掌に担当の教員を複数配するなどして、その取組を活性化させることが必要です。

テーマ

## やる気・元気・優しさあふれる青和っ子プラン

目標

学校・家庭・地域が協働して子どもをはぐくみ、地域との絆を深める。

### 今年度の取組紹介

本年度も、確かな学力を身に付けるため、豊かな体験を通して学ぶ授業を重視し、地域の方をゲストティーチャーとして招き、子どもたちの生きる力を育む取組を進めてきました。

学習支援の1つとして、読書の習慣を高め豊かな表現力を育てるため、低学年を中心に図書ボランティアの方々に紙芝居など読み聞かせをしていただいたり、昼休みは、図書室でパネルシアターや指人形を使っての読み聞かせをしていただいたりしました。子どもたちは、月に一度のこの時間をとても楽しみにしています。

また、生活科では野菜の栽培支援をしていただきました。地域の方にサツマイモの植え方について一人一人に丁寧に教えていただき、子どもたちは地域の方と一緒に苗をひとつひとつ植えていきました。秋には収穫祭にお招きし、収穫した芋を食べていただいたり、ゲームなどをして交流したりしました。その時の地域の方の楽しそうな笑顔が印象的でした。

その他、5年生の森林環境教育でも地域の方から直接お話を聞き、森林の大切さについての理解を深めることができました。



安全支援では、地域の交通安全ボランティアの方に朝早くから見守り活動をしていただいています。子どもの命と安全を守るため、寒い日も暑い日も毎朝立哨していただき、あいさつをかわすことで心がふれあいこのことで絆が深まっています。それから、給食開始まで一年生の下校指導もしていただいています。

その他にも、教育環境整備支援で、暑い中、多くの地域の方に校内の木の手入れをしていただいたりして、子どもたちは、二学期を気持ち良く学習や運動に取り組むことができました。

### 今年度のまとめ

このように、学校・保護者・地域が協働して様々な取組を推進してきました。その結果、子どもたちに自ら学ぶ楽しさを体感させ、確かな学力を身に付けさせることができました。また、図書の充実を図ることで、読書活動が活発になり子どもたちの読書量も増やすことができました。さらに、図書ボランティアの方々の読み聞かせを通して交流することで、教育活動の充実を図ることができました。それから、交通安全ボランティアの方々による見守り活動を通して、挨拶をかわすことで心のふれあい、地域の方々との絆が深まり、コミュニケーションの輪がひろがってきています。

### 来年度に向けて

地域連携による子どもの育成をテーマとし、事業を推進してきました。地域の様々な場面で活躍されている方々の支援を受けながら交流を行い、学校・家庭・地域が協働して子どもたちを育むことができました。そして、地域との絆も深めることができました。今後、学校と地域の連携をさらに強化するために、コーディネーターやボランティアの方々や教職員との交流を深め、地域との輪が一層広がっていくようにしていきたいと考えています。

テーマ

**心が動く・体が動く・笑顔が輝くみんなの幼稚園**

目標

**心を動かす感動体験を積み重ね、生きる力の基盤を育む**

今年度の取組紹介

## 【神谷さんのお話広場】

地域の方に毎月1回、来園してもらい、民話や外国の楽しいお話を素話で聞かせてもらっています。今年度は、未就園児の3歳児にもお話をさせていただきました。園児は毎月のお話をとても楽しみにしています。当日は「神谷さん、こんにちは」と、進んで挨拶をし、「今日はどんなお話？」と、心待ちにしています。お話が始まると、神谷さんの静かで落ち着いた雰囲気



を引き込まれるようにして、想像をめぐらせながら、お話を聞いています。10月に4歳児に『どうぞのいす』のお話をしてくださったところ、子どもたちはこの話がすっかり気に入り、担任にお話をせがんだり、自分たちで絵本を見たりしていました。その後、お話の中の登場物になって遊ぶようになり、劇遊びへと発展していきました。2月の生活発表会で、クラスみんなで作り上げた『どうぞのいす』の劇遊びを披露しました。神谷さんにも来ていただいて、子どもたちが演じる姿を参観していただきました。神谷さんにしていただいたお話が心に残る経験となりました。

これまでの経過を、保護者にも伝え、子どもたちの成長を喜ぶとともに、支援してくださっている地域の方の活動が、子どもたちの豊かな学びにつながっていることに感謝しています。

今年度のまとめ

- ・「お話広場」「わらべ歌で遊ぼう」は園児だけでなく、未就園児も経験し、楽しむことができました。「空手教室」「リトミックで遊ぼう」は、楽しく体を動かして活動する中で、あいさつやルールを守ることにも身につきました。また、「英語で遊ぼう」は、楽しみながら異文化に親しむことができました。また、地域の教育力を十分生かすことができました。
- ・事業を通して、民生さんや小学生、中学生、二名幼稚園の友達等、様々な人とのコミュニケーションを図るとともに、人々の温かさを感じて取り組むことができました。
- ・絵本をたくさん購入することができ、絵本室の環境整備が進みました。お話広場を通して、絵本やお話の世界を楽しむとともに、話を聞く力がつきました。

来年度に向けて

次年度も「お話広場」「リトミックで遊ぼう」「英語で遊ぼう」「わらべ歌で遊ぼう」「民生さんと遊ぼう」、ふれあい清掃、食育講座は、コーディネーターと連携して継続したいと思います。次年度も園舎工事が続くので、園内環境の変化に対応できる環境づくりを進めていきます。

テ ー マ

## 『 二 名 大 好 き 奈 良 大 好 き 』

みんなにこにこ もりもり きらきら 大きく育て

目 標

感動体験を通して、健康で豊かな心を育み、いきいきと表現する幼児を育てる。

## 今年度の取組紹介

## ● お茶会 (9月11日・14日)

地域の方から丁寧に教えていただいたことで戸惑いもなく、琴の音色を聴きながら日本の文化を体験しました。人のためにする喜び（おもてなしの心）と、自己実現の喜びを味わうことができ次の活動に自信をもって取り組みました。今年度は、祖父母参観で実施し、107名が参加され、初めての方がほとんどで大変好評でした。



## ● 世界遺産学習～元興寺・わくわくセンター～ (11月14日)

地域の方11名・職場体験の二名中学校生徒4名と一緒に元興寺に行きました。地域の方や生徒に自分の感じた思いを聞いてもらえる嬉しさ、本物を見た感動を味わうことができました。1300年前からある屋根瓦を見て、地域の方に「おばちゃんも知っている？」と尋ねたり、お堂の中で仏様を拝む時のしぐさを教えてもらったりしていました。地域の方の動作を真似ながら、昔から受け継がれてきた人々の想いを大切に、受け継いでいってほしいです。



## 今年度のまとめ

地域の方々から、「いつでも声をかけてください。できることは何でもします。私たちも幼稚園の子どもたちから元気もらっていますから。」「地域子どもたちは、大事ですから。」と温かい言葉をいただいています。また、「子どもたちにできるかな？」と心配しておられた地域の方は、子どもたちの一生懸命取り組んでいる姿を見て「子どもたちの方が感性がありますね。」と感心されていました。子どもたちも支援していただいた近所の地域の方にご挨拶に行ったり、気軽に「〇〇さん、元気だった。」「この間は楽しかったね。」と話しかけたりしていました。相手のことを思いやる心配りや言葉のやり取りなど、コミュニケーション力が育ってきています。

## 来年度に向けて

周りに聞くことができない、他者の子育てを見ることできないなど子育てしにくい状況から、自信がもてない親の姿が見られます。そのため、子育ての不安を少しでも解消する保護者支援に取り組んでいきたいです。園評価の中で、「地域の方々に見守られていると実感しているが、地域の方と交流する機会がほとんどない。」という意見をいただき、世代を超えて地域の方々と子育てについて話しあう場があればと考えています。幼稚園が交流の場となり保護者を孤立させない地域づくりをしていき、幼稚園として子育て支援のネットワークを充実させていきたいです。